平成25年３月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年２月８日

上場会社名　　丸全昭和運輸株式会社　　上場取引所　東
コード番号　　9068　　ＵＲＬ　http://www.maruzenshowa.co.jp/
代表者　　（役職名）取締役社長　　（氏名）浅井　俊之
問合せ先責任者　（役職名）取締役経理部長　　（氏名）石川　健一　　ＴＥＬ　045-671-5879

四半期報告書提出予定日　　平成25年２月12日　　配当支払開始予定日　－
四半期決算補足説明資料作成の有無：　無
四半期決算説明会開催の有無　　：　無

（百万円未満切捨て）

１．平成25年３月期第３四半期の連結業績（平成24年４月１日～平成24年12月31日）

（１）連結経営成績（累計）　　（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年３月期第３四半期	65,314	△0.3	3,231	△0.7	3,686	3.2	2,294	5.1
24年３月期第３四半期	65,541	1.7	3,254	13.5	3,571	12.4	2,182	12.6

（注）包括利益　25年３月期第３四半期　2,462百万円（72.3%）　24年３月期第３四半期　1,428百万円（14.1%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年３月期第３四半期	25.63	－
24年３月期第３四半期	24.09	－

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	１株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年３月期第３四半期	94,465	57,230	60.5	638.33
24年３月期	94,165	55,569	58.9	619.83

（参考）自己資本　25年３月期第３四半期　57,142百万円　24年３月期　55,488百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年３月期	－	5.00	－	4.00	9.00
25年３月期	－	4.00	－		
25年３月期（予想）				4.00	8.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：　無
平成24年３月期第２四半期末の１株当たりの配当金５円00銭には、創立80周年記念配当１円00銭が含まれております。

３．平成25年３月期の連結業績予想（平成24年４月１日～平成25年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	92,000	5.6	4,600	9.2	4,900	4.6	3,000	13.0	33.51

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：　無

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：　有
新規　1社　（社名）鹿島タンクターミナル株式会社

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：　無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更	：	有
②　①以外の会計方針の変更	：	無
③　会計上の見積りの変更	：	有
④　修正再表示	：	無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	25年３月期３Ｑ	98,221,706株	24年３月期	98,221,706株
②　期末自己株式数	25年３月期３Ｑ	8,703,612株	24年３月期	8,700,004株
③　期中平均株式数（四半期累計）	25年３月期３Ｑ	89,519,739株	24年３月期３Ｑ	90,607,789株

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続きは終了しておりません。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信（添付資料）３ページ「（３）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 3
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 4
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 4
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 4
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 4
３．継続企業の前提に関する重要事象等 …… 4
４．四半期連結財務諸表 …… 5
（１）四半期連結貸借対照表 …… 5
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 7
四半期連結損益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 7
四半期連結包括利益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 8
（３）継続企業の前提に関する注記 …… 9
（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 9
（５）セグメント情報等 …… 9

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第３四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要などを背景に緩やかな回復基調が見られたものの、長引く欧州債務問題や新興国経済の成長鈍化による世界的な経済の減速懸念もあり、依然として不透明な状況が続きました。

一方、物流業界におきましては、国際貨物の輸送量は世界経済が減速傾向を強めていることから輸出環境に好転の兆しが見えず、ほぼ横ばいの状況が続いており、また国内貨物の輸送量は生産の回復や前年度における大幅な減少の反動などを受け、ようやく増加の兆しが見えてきましたが、反動の一巡後は景気の減速を受けて再び減少が予想される状況です。さらに、トラックの燃料価格も高騰しており、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このようななかで、当社グループは平成22年度を初年度とする３か年にわたる第四次中期経営計画の最終年度を迎え、重点施策である１．売上の拡大　２．物流品質の維持・向上　３．企業基盤の強化　に全力で取り組み、収益目標の達成に努めるとともに、新体制のもと次の第五次中期経営計画へ繋げるため、１．人材の強化　２．現場力の強化　３．営業力の強化　４．管理力の強化　の４点に焦点を合わせ、協力企業との連携を強化しオール丸全による国内物流機能の強化とグローバル・ロジスティクス・パートナーをめざす姿として海外拠点の機能強化にも取り組んでおります。

この結果、当第３四半期連結累計期間の経営成績につきましては、売上高は65,314百万円（前年同期比0.3％減）、営業利益は3,231百万円（前年同期比0.7％減）、経常利益は3,686百万円（前年同期比3.2％増）、そして四半期純利益は2,294百万円(前年同期比5.1％増）となりました。

セグメント別の状況につきましては、次のとおりであります。

＜物流事業＞

貨物自動車運送事業については、関東地区では樹脂等の３ＰＬの新規受注や、建設機械部品・燃料計量器・自動車部品・住宅建材等の取扱増加に伴う輸送量の増加もありましたが、一部の食品関係の業務終了や医療用フィルムの取扱減少・非鉄金属等の取扱減少により減収となりました。中部地区では、ステンレス関係の輸送業務統合に伴い取扱量が増加し、関西地区でも日用雑貨や断熱材・樹脂製品・介護用品等の取扱が増加し、全体では増収となりました。

港湾運送事業については、石炭や青果物の取扱増加もありましたが、ステンレス屑や飼料・ニッケル等の輸出入の減少や、建設機械の部品・製品の輸出取扱が減少し、減収となりました。

倉庫業については、関東地区では航空貨物の減少による取扱減少もありましたが、建設機械部品の取扱が増加し、研磨材料・樹脂等の取扱も増加したことにより増収となりました。関西地区でも、樹脂・化成品の取扱が増加し、全体で増収となりました。鉄道利用運送業については、断熱材・建材製品やゴム製品のＪＲコンテナによる輸送取扱増加により増収となりました。

その結果、物流事業の売上高は前年同期比0.5％増収の52,058百万円、営業利益は前年同期比2.4％増益の2,122百万円となりました。

＜構内作業及び機械荷役事業＞

構内作業については、関東地区では食品関係の業務終了による減少があり、関西地区では日用雑貨の取扱増加による若干の増収がありましたが、全体では減収となりました。機械荷役事業については、クレーン案件の増加が見られず微減となりました。

その結果、構内作業及び機械荷役事業の売上高は前年同期比1.0％減収の10,954百万円、営業利益は前年同期比0.7％減益の689百万円となりました。

＜その他事業＞

地代収入については、関西地区での契約満了案件等があり、減収となりました。また、工事収入においても、大型の移設案件が終了となり減収となりました。

その結果、その他事業の売上高は前年同期比14.4％減収の2,301百万円、営業利益は前年同期比14.1％減益の418百万円となりました。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

当第３四半期の総資産は、94,465百万円と前期末に比べ300百万円増加しました。

このうち、流動資産は31,065百万円となり、前期末に比べ2,240百万円減少しました。主な要因はその他に含まれる信託受益権が1,000百万円増加し、有価証券が1,899百万円、受取手形及び営業未収金が1,259百万円減少したことによります。また、固定資産は63,400百万円となり、前期末に比べ2,541百万円増加しました。その主な要因は、建物及び構築物に含まれる構築物が1,195百万円、建設仮勘定が819百万円、土地が657百万円増加したことによるものです。なお、有形固定資産の大幅な増加は、大阪堺地区における新倉庫建設及び鹿島タンクターミナル㈱を新規に連結したことによるものです。

流動負債は26,835百万円となり、前期末に比べ2,356百万円増加しました。主な要因は支払手形及び営業未払金が1,343百万円、未払法人税等が763百万円減少し、短期借入金に含まれる一年以内返済予定の長期借入金が4,729百万円増加したことによるものです。また、固定負債は10,399百万円となり、前期末に比べ3,715百万円減少しました。主な要因は長期借入金が3,533百万円減少したことによるものです。

当第３四半期の純資産は、57,230百万円と前期末と比べ1,660百万円増加しました。主な要因は、利益剰余金が1,499百万円、その他有価証券評価差額金が155百万円増加したことによるものです。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

今後のわが国経済は、円安や景気底入れ感等の好材料も散見されますが、不安定な国際政治情勢や停滞する世界経済さらに、原油高や電力供給のエネルギー問題などにより依然として厳しい状況が続くことも予想されます。

このような経済環境の下、当社グループといたしましては、第四次中期経営計画の最終年度の取組み課題を着実に遂行し、第五次中期経営計画に向けて「連結売上1000億円超」を確実に視野に入れるため、業績のさらなる向上をめざしてまいります。

平成25年３月通期の業績予想につきましては、現時点では平成24年５月10日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第３四半期連結累計期間において、平成24年10月より事業を開始し重要性が増したため、鹿島タンクターミナル㈱を連結の範囲に含めております。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（減価償却方法の変更）

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第１四半期連結会計期間より、平成24年４月１日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、これによる当第３四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響額は軽微であります。

３．継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

４．四半期連結財務諸表

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成24年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成24年12月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,069	6,576
受取手形及び営業未収金	18,479	17,220
有価証券	5,399	3,499
貯蔵品	116	110
前払費用	466	601
繰延税金資産	605	558
その他	1,190	2,517
貸倒引当金	△19	△18
流動資産合計	33,306	31,065
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	20,708	21,847
機械及び装置（純額）	1,545	1,763
車両（純額）	510	570
工具、器具及び備品（純額）	53	49
リース資産（純額）	540	580
土地	18,359	19,017
建設仮勘定	208	1,027
有形固定資産合計	41,924	44,856
無形固定資産		
のれん	0	0
その他	757	865
無形固定資産合計	757	865
投資その他の資産		
投資有価証券	12,467	12,093
長期貸付金	230	282
繰延税金資産	15	42
その他	5,490	5,288
貸倒引当金	△27	△29
投資その他の資産合計	18,175	17,678
固定資産合計	60,858	63,400
資産合計	94,165	94,465

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成24年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成24年12月31日）
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	9,061	7,718
短期借入金	9,788	14,488
1年内償還予定の社債	29	29
未払金	469	666
未払法人税等	1,136	372
未払消費税等	330	237
未払費用	1,656	1,749
賞与引当金	1,212	610
役員賞与引当金	1	0
災害損失引当金	17	17
その他	775	945
流動負債合計	24,479	26,835
固定負債		
社債	144	130
長期借入金	10,574	7,040
繰延税金負債	1,470	1,711
退職給付引当金	518	129
役員退職慰労引当金	10	7
資産除去債務	586	587
その他	810	792
固定負債合計	14,115	10,399
負債合計	38,595	37,235
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,117	9,117
資本剰余金	7,848	7,848
利益剰余金	39,792	41,291
自己株式	△2,465	△2,466
株主資本合計	54,292	55,790
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,525	1,680
為替換算調整勘定	△328	△329
その他の包括利益累計額合計	1,196	1,351
少数株主持分	81	88
純資産合計	55,569	57,230
負債純資産合計	94,165	94,465

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年12月31日）
営業収益	65,541	65,314
営業原価	59,541	59,531
営業総利益	5,999	5,783
販売費及び一般管理費	2,745	2,551
営業利益	3,254	3,231
営業外収益		
受取利息	6	5
受取配当金	230	247
持分法による投資利益	176	230
雑収入	144	200
営業外収益合計	557	684
営業外費用		
支払利息	196	195
雑支出	44	34
営業外費用合計	241	230
経常利益	3,571	3,686
特別利益		
固定資産売却益	23	105
負ののれん発生益	－	18
特別利益合計	23	123
特別損失		
固定資産除売却損	45	21
投資有価証券評価損	－	195
80周年記念事業費	47	－
特別損失合計	93	216
税金等調整前四半期純利益	3,501	3,592
法人税、住民税及び事業税	1,195	1,114
法人税等調整額	92	171
法人税等合計	1,288	1,285
少数株主損益調整前四半期純利益	2,213	2,307
少数株主利益	30	12
四半期純利益	2,182	2,294

（四半期連結包括利益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年12月31日）
少数株主損益調整前四半期純利益	2,213	2,307
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△747	153
為替換算調整勘定	△25	△0
持分法適用会社に対する持分相当額	△11	2
その他の包括利益合計	△784	154
四半期包括利益	1,428	2,462
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,398	2,449
少数株主に係る四半期包括利益	30	12

（３）継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

（５）セグメント情報等
【セグメント情報】
Ⅰ.前第３四半期連結累計期間（自平成23年４月１日　至平成23年12月31日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他（注１）	合計	調整額（注２）	四半期連結損益計算書計上額（注３）
	物流事業	構内作業及び機械荷役事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	51,787	11,065	62,852	2,688	65,541	－	65,541
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	335	335	△335	－
計	51,787	11,065	62,852	3,024	65,876	△335	65,541
セグメント利益	2,072	694	2,766	487	3,254	－	3,254

注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建設業、警備業、産業廃棄物処理業、不動産業、保険代理業、自動車整備業等のサービスを実施しております。
２．調整額△335百万円は、セグメント間取引消去額であります。
３．セグメント利益の合計は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。

Ⅱ.当第３四半期連結累計期間（自平成24年４月１日　至平成24年12月31日）
１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他（注１）	合計	調整額（注２）	四半期連結損益計算書計上額（注３）
	物流事業	構内作業及び機械荷役事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	52,058	10,954	63,013	2,301	65,314	－	65,314
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	326	326	△326	－
計	52,058	10,954	63,013	2,628	65,641	△326	65,314
セグメント利益	2,122	689	2,812	418	3,231	－	3,231

注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建設業、警備業、産業廃棄物処理業、不動産業、保険代理業、自動車整備業等のサービスを実施しております。
２．調整額△326百万円は、セグメント間取引消去額であります。
３．セグメント利益の合計は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。

２．報告セグメントごとの資産に関する情報

当社は、当第３四半期連結会計期間より鹿島タンクターミナル㈱を事業開始に伴い重要性が増したため連結の範囲に含めております。これにより、当第３四半期連結会計期間のセグメントの資産の金額は、「物流事業」において2,516百万円増加しております。